

「公的部門インターンシップ」の一環として、本学科の学生が一般財団法人東京学校支援機構（TEPRO（ティープロ））を訪問し、その模様が東京学校支援機構のSNS、機構内部の広報誌で紹介されました。記事を提供いただきましたので一部抜粋してご紹介します。

なお、Twitterでの紹介は以下のリンク先をご覧ください。

<https://twitter.com/teprotokyo/status/1433603148288040961>



* TOPIC

都立大生がTEPROで実習 — 「公的部門インターンシップ」授業の一環で <総務課>

8月19日、TEPROでインターン生（東京都立大学都市環境学部都市政策学科3年生の佐々木香菜子（ささきかなこ）さん）を受け入れ、事業説明や意見交換、見学を実施しました。

「公的部門インターンシップ」は、同学科のカリキュラムの一つで、都市の複雑な課題の発見・解決を担う人材育成を目指し、実践的思考力を習得させることを目的としたプログラムです。

インターン生として参加された佐々木さんは、学校の働き方改革に着目し、外部人材の配置やICT環境の整備により勤務時間がどのように短縮されるか統計的に研究を進められているそうです。

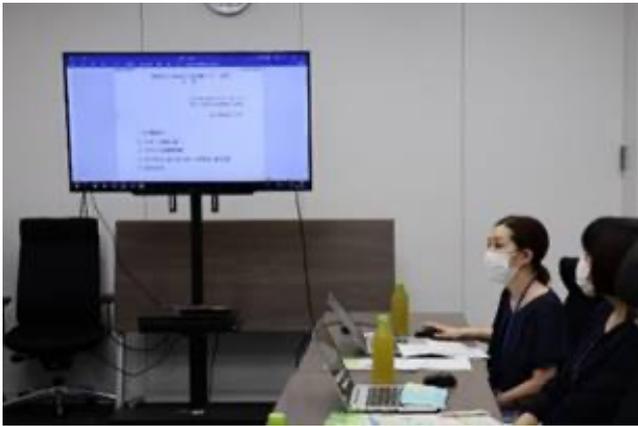


（自己紹介をする佐々木さん）

実習は、TEPROの全体説明、TEPRO Supporter Bank 事業説明、意見交換という流れで行われました。

まず、総務課担当者が、設立目的や実施事業の概要を説明しました。

また、TEPRO Supporter Bank について、人材支援課担当者が、動画やシステム画面などを用いて、事業の概要や課題、今後の展開などの説明を行いました。



(実習の流れを説明する総務課担当者 (奥))



(システム画面を使って説明する人材支援課担当者 (手前))

意見交換では、佐々木さんから、「運営していて感じる課題は何か」、「学校のリクエストを増やすためにどのようなアプローチを考えているか」、「教員の意識改革が必要だという話を聞くが、実際にうまくいくための方策はあるか」など質問がありました。人材支援課担当者が、質問に丁寧に答えていました。



(意見交換での佐々木さん)



(意見交換での人材支援課担当者 (中央))

最後に、佐々木さんから、「事前にホームページをみていましたが、実際に話を聞いてイメージがわきました。課題点も聞くことができ、都民からの人材(サポーター)が集まっているという点は想像とは違っている点でした。研究に生かしていきたいです。登録にも興味がわきました」という感想がありました。

この実習から、普段は見えてこない、学校や教員を支えている「現場」を体験してもらうことができたのではないのでしょうか。総務課担当者は、「インターン生の受入れは、TEPROの使命や事業について多くの人に理解していただけるいい機会です。これからもできるだけ続けていきたいです。」と話していました。